

教育研究上の目的

文芸文化学科は、人間教育の基盤となることばの力を磨き、文化・芸術を深く洞察して、人として知的に成熟することを目指す人材を育成するとともに、急激に変動する未来社会において、ゆるぎない自己を確立し、相手を慮る力を発揮して、グローバル社会の中で、多様な文化背景を持つ人々と共に生き抜くことのできる心豊かな人材を育成することを教育研究上の目的とする。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

文芸文化学科では、教育研究上の目的を達成するために、次の学生像を人材育成の方針とする。

1. ことばを中核とした多様な芸術・文化・社会への深い理解と洞察力をもっている。
2. 身近な芸術・文化・社会の営みを体験しながら他者とともに学びあい、確かなことばで表現し発信することができる。
3. 多様な文化環境を有する社会において、人間理解に基づく幅広い知識とその知見を生かし、新たな文化・芸術を創造・発信することができる。

そのうえで、次の資質及び能力を有している者に「学士（文学）」の学位を授与する。

①知識・技能

1. 社会人として求められる日本語運用能力、語彙力、文字知識を身につけている。
2. 日本と世界の文学・芸術・文化に関する幅広い知識を身につけている。
3. 現代社会の多様性を理解し他者と協働するための技法を身につけている。

②思考力・判断力・表現力

1. 自己と自文化について考え、客観的に分析することができる。
2. 他者と他文化を受け入れ、共感的に分析することができる。
3. 多様な文化・芸術を読み解き、基礎的な技法を用いて表現することができる。

③主体性・多様性・協働性

1. 研究課題に関する効率的な情報の収集を行い、的確に分析することができる。
2. 自らの研究課題を発見し、それを幅広い視野から深く考察することができる。
3. 文化や社会に対する新たな価値観や視点を創造し発信することができる。

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

文芸文化学科では、人間と言葉への理解を深めるとともに、多彩な表現活動の意味を認識し、文化・芸術の創造的な働きや豊かな広がり、及びその価値を感得し、多様な文化環境を有する社会へ新たな文化・芸術の創造・発信に結びつく段階的なカリキュラムを設定している。

- ・1年次では、アカデミック・リテラシーと言語運用能力を涵養し、進級後の専門学習に必要な基礎的な知識・技能を身につける。
- ・2年次では、思考力、判断力、表現力、分析力、情報処理能力、コミュニケーション能力を養うPBL型演習科目「文芸文化ゼミ」を軸に、1年次で修得した知識・技能をさらに発展、拡充させ、さまざまな文化や芸術を対象とする研究に応用することを通して、主体性・多様性・協働性を身につける。また、3年次のコース選択に備えるため、幅広い領域にわたる学科専門科目や「ワークショップ科目」の履修により、1・2年次に多様な文化・芸術に触れることで自己の興味・関心のあり方を見定める。

- ・3年次では、「日本語・日本文学コース」「多文化理解・共生コース」「芸術・文化コース」のいずれかを選択し、少人数制の演習科目「文芸文化テーマ研究ゼミ」の履修により専門分野へのさらなる考究を深め、4年次の「卒業研究」への取り組みに結びつける。
- ・4年次では、学びの集大成として「卒業研究」において卒業論文、卒業制作に取り組み、その過程で課題発見・解決力や論理的思考力を身につける。

そのための教育課程の編成方針は以下のとおりである。

日本語科目

1. 文化・芸術を深く洞察するため、日本語に関する基礎知識を修得させる。
2. 多様な文化・芸術を踏まえながら、日本語に関する基礎知識を論理的に他者に説明できる技能を育む。
3. 地域・社会に関する諸課題に結びつけながら、日本語に関する知識を相互に関連づけて理解させる。
4. 日本語に対して、自らが客観的に考察できる能力を育成する。
5. 日本語に対する興味・関心を発見し、他者とともに論理的に思考・表現できる技法を習得させる。
6. 日本語に関する基礎知識を基盤に、論理的に思考・表現できる能力を育成する。
7. 日本語に対して持続的に探究する態度を養う。
8. 日本語に対して他者とともに探究する意欲を養う。
9. 日本語に関する課題を主体的に設定する姿勢を養う。

ことばの科目・ワークショップ科目

1. ことばを中核とした多様な芸術・文化・社会の基礎知識を修得させる。
2. ことばを中核とした多様な芸術・文化・社会の基礎知識を論理的に他者に説明できる技能を育む。
3. ことばを中核とした多様な芸術・文化・社会の知識を相互に関連づけて理解させる。
4. 確かなことばで主体的に表現し、客観的に考察できる能力を育成する。
5. ことばに対する興味・関心を他者とともに発見し、論理的に思考・表現できる技法を習得させる。
6. 地域・社会に関する諸課題に結びつけながら、他者とともに思考・表現できる能力を育成する。
7. 自己の興味・関心を基盤に、持続的に探究する態度を養う。
8. 他者とともに探究しあい、成果を表現し、発信する意欲を養う。
9. ことばを中核とした多様な芸術・文化・社会に対する課題を他者と協働しながら設定する能力を育成する。

日本語・日本文学科目

1. 日本語・日本文学に関する基礎知識を主体的に修得させる。
2. 日本語・日本文学に関する基礎知識を論理的に他者に説明できる技能を育む。
3. 多様な側面から日本語・日本文学に関する知識を相互に関連づけて、地域・社会に関する諸課題への理解を養う。
4. 日本語・日本文学に対して、客観的に分析できる能力を育成する。
5. 日本語・日本文学に対する興味・関心を発見し、論理的に思考・表現できる技法を習得させる。
6. 日本語・日本文学に関する基礎知識を基盤に社会の諸課題に関心を持ち続け、論理的に思考・表現できる能力を育成する。
7. 自己の興味・関心を踏まえ、持続的に日本語・日本文学に対して探究する態度を養う。
8. 自己の興味・関心を踏まえ、他者とともに日本語・日本文学に対して探究する意欲を養う。
9. 日本語・日本文学に関する課題を主体的に設定することができ、他者と協働して複眼的に諸課題に対して取り組む能力を育成する。

多文化理解・共生科目

1. 多文化理解・共生に関する基礎知識を主体的に修得させる。
2. 多文化理解・共生に関する基礎知識を論理的に他者に説明できる技能を育む。

3. 多様な側面から多文化理解・共生に関する知識を相互に関連づけて、地域・社会に関する諸課題への理解を養う。
4. 多文化理解・共生に対して、客観的に分析できる能力を育成する。
5. 多文化理解・共生に対する興味・関心を発見し、論理的に思考・表現できる技法を習得させる。
6. 多文化理解・共生に関する基礎知識を基盤に社会の諸課題に関心を持ち続け、論理的に思考・表現できる能力を育成する。
7. 自己の興味・関心を踏まえ、持続的に多文化理解・共生に対して探究する態度を養う。
8. 自己の興味・関心を踏まえ、他者とともに多文化理解・共生に対して探究する意欲を養う。
9. 多文化理解・共生に関する課題を主体的に設定することができ、他者と協働して複眼的に諸課題に対して取り組む能力を育成する。

芸術・文化科目

1. 芸術・文化に関する基礎知識を主体的に修得させる。
2. 芸術・文化に関する基礎知識を論理的に他者に説明できる技能を育む。
3. 多様な側面から芸術・文化に関する知識を相互に関連づけて、地域・社会に関する諸課題への理解を養う。
4. 芸術・文化に対して、客観的に分析できる能力を育成する。
5. 芸術・文化に対する興味・関心を発見し、論理的に思考・表現できる技法を習得させる。
6. 芸術・文化に関する基礎知識を基盤に社会の諸課題に関心を持ち続け、論理的に思考・表現できる能力を育成する。
7. 自己の興味・関心を踏まえ、持続的に芸術・文化に対して探究する態度を養う。
8. 自己の興味・関心を踏まえ、他者とともに芸術・文化に対して探究する意欲を養う。
9. 芸術・文化に関する課題を主体的に設定することができ、他者と協働して複眼的に諸課題に対して取り組む能力を育成する。

ゼミナール・卒業研究

1. 人文科学の知識と技能を基盤に、複眼的な視野から新たな専門知識を修得させる。
2. 自己の関心に基づく研究課題を自ら設定できる能力を育成する。
3. 研究課題を解明するための人文科学の基本的な研究方法を習得させる。
4. 人文科学の知識と技能を基盤に、客観的に分析するために必要な論理的思考力を育成する。
5. 人文科学の実践的研究を通して、他者に対して論理的・客観的に表現するプレゼンテーション能力を育成する。
6. 研究課題に対する論理的・客観的な思考力と表現力を養う。
7. 人文科学の知識と技能を基盤に分析した結果・知見を地域や社会に結びつけ、還元する姿勢を養う。
8. 自己の関心に基づく研究課題を解明するために、他者とのラポールを形成し、複眼的視点から考察する能力を育成する。
9. 研究課題に対して、持続的かつ主体的に取り組む意欲と態度を養う。

カリキュラムマップでは、各学科の学生が、卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の関連性などがわかるようになっています。

カリキュラムの授業科目間のつながりや年次進行などがわかりますので、履修上の参考にしてください。

文芸文化学科 カリキュラムマップ

→ 必修科目 → 日本語・日本文学コース必修科目 → 多文化理解・共生コース必修科目 → 芸術・文化コース必修科目

→日本語・日本文学コース選択必修科目 △→多文化理解・共生コース選択必修科目 ○→芸術・文化コース選択必修科目

領域	学生が身につけるべき資質・能力	1年次	2年次	3年次	4年次
日本語科目	・社会人として求められる日本語運用能力、語彙力、文字知識を身につけている。	日本語基礎 日本語表現Ⅰ	日本語表現Ⅱ	日本語表現Ⅲ	
1年次の科目	・日本と世界の文学・芸術・文化に関する幅広い知識を身につけている。 ・芸術・文化に関して基礎的な技法を用いて表現することができる。 ・社会人として求められる日本語運用能力、語彙力、文字知識を身につけている。 ・現代社会の多様性を理解し他者と協働するための技法を身につけている。 ・文化や社会に対する新たな価値観や視点を創造し発信することができる。 ・自己と自文化について考え、客観的に分析することができる。 ・他者と他文化を受け入れ、共感的に分析することができる。 ・研究課題に関する効率的な情報の収集を行い、的確に分析することができる。 ・自らの研究課題を発見し、それを幅広い視野から深く考察することができる。 ・多種多様な文化を読み解き、比較文化的に考察することができる。	朗読 精読 演劇表現 読み聞かせ 文章創作 アナウンス入門 くらしの中のことば 手話表現 表現技法 ことばあそび			
ワークショップ科目	・芸術・文化に関して基礎的な技法を用いて表現することができる。 ・文化や社会に対する新たな価値観や視点を創造し発信することができる。 ・自己と自文化について考え、客観的に分析することができる。 ・他者と他文化を受け入れ、共感的に分析することができる。 ・研究課題に関する効率的な情報の収集を行い、的確に分析することができる。 ・社会人として求められる日本語運用能力、語彙力、文字知識を身につけている。 ・日本と世界の文学・芸術・文化に関する幅広い知識を身につけている。 ・自らの研究課題を発見し、それを幅広い視野から深く考察することができる。 ・現代社会の多様性を理解し他者と協働するための技法を身につけている。 ・多種多様な文化を読み解き、比較文化的に考察することができる。	多文化ステディーズ 実用書道（硬筆） 実用書道（毛筆）	文化発信プロジェクト 着物の文化 書籍空間論 和本の文化 小説研究 デジタルアート入門 デザイン書道（硬筆） デザイン書道（毛筆）		
日本語・日本文学科目	（学科必修科目） ・文化関連の基礎知識を身につけることができる。 ・文化関連の基礎知識を自ら収集する力を身につけることができる。 ・文化関連の基礎知識を活用して考察を深める力を身につけることができる。 （コース必修・選択科目） ・日本語・日本文学関連の基礎知識を身につけることができる。 ・日本語・日本文学関連の専門知識を身につけることができる。 ・多様な知識を関連づけて理解することができる。	日本語学入門 日本文学史A 日本文学史B 日本文学史C 言語学入門 日本文学の名作	日本文学概論	音声表現 漢語・漢文に親しむ 日本語学A 日本語学B 日本語学研究A 日本語学研究B 日本文学論A 日本文学論B 日本文学論C 日本文学研究A 日本文学研究B	

		☐ 日本文学研究C 武將文学論 放送文化と日本語 日本語音声学 児童文学 物語分析
多文化理解・共生科目	（学科必修科目） ・文化関連の基礎知識を身につけることができる。 ・文化関連の基礎知識を自ら収集する力を身につけることができる。 ・文化関連の基礎知識を活用して考察を深める力を身につけることができる。 （コース必修・選択科目） ・多様な文化に関する専門知識を身につけることができる。 ・多様な文化に関する専門知識を自ら収集する力を身につけることができる。 ・多様な文化に関する専門知識を活用して考察を深める力を身につけることができる。	多文化理解入門 多文化理解概論 日本と異文化 多文化社会とコミュニケーション 海外文学の名作 多文化共生ワークショップ 英語で学ぶ日本文化 英語で伝える日本文化 国際文化論 比較文化論 比較文化研究 世界のファンタジー 多文化社会とユーモア アニメ文化論 ディズニー研究
芸術・文化科目	（学科必修科目） ・文化関連の基礎知識を身につけることができる。 ・文化関連の基礎知識を自ら収集する力を身につけることができる。 ・文化関連の基礎知識を活用して考察を深める力を身につけることができる。 （コース必修・選択科目） ・芸術・文化関連の基礎知識を身につけることができる。 ・芸術・文化関連の専門知識を身につけることができる。 ・多様な知識を関連づけて理解することができる。	芸術文化概論 日本文化特講 生涯学習概論 日本美術史 西洋美術史 文化を考える 文化財研究 日本の民俗文化 図書の文化 衣食住の文化 映像文化論 演劇の世界 芸術と歴史 テーマで触れる芸術 生活とデザイン 考える日本史 神話・伝承学 芸能の世界 舞台芸術 ミュージカル研究 身体と表現
卒業研究・ゼミナール	・人文科学の実践的研究を体験し、学びに関心を持つことができる。 ・人文科学の基本的研究方法を身につけることができる。 ・自らの課題を設定し探究する力を身につけることができる。	基礎演習 文芸文化ゼミⅠ 文芸文化ゼミⅡ 文芸文化テーマ研究ゼミ 卒業研究
DP	文芸文化学科では、教育研究上の目的を達成するために、次の学生像を人材育成の方針とする。 1. ことばを中核とした多様な芸術・文化・社会への深い理解と洞察力をもっている。 2. 身近な芸術・文化・社会の営みを体験しながら他者とともに学びあい、確かなことばで表現し発信することができる。 3. 多様な文化環境を有する社会において、人間理解に基づく幅広い知識とその知見を生かし、新たな文化・芸術を創造・発信することができる。	
CP	文芸文化学科では、人間と言葉への理解を深めるとともに、多彩な表現活動の意味を認識し、文化・芸術の創造的な働きや豊かな広がり、及びその価値を感受し、多様な文化環境を有する社会へ新たな文化・芸術の創造・発信に結びつく段階的なカリキュラムを設定している。 ・1年次では、アカデミック・リテラシーと言語運用能力を涵養し、進級後の専門学習に必要な基礎的な知識・技能を身につける。 ・2年次では、思考力、判断力、表現力、分析力、情報処理能力、コミュニケーション能力を養うPBL型演習科目「文芸文化ゼミ」を軸に、1年次で修得した知識・技能をさらに発展、拡充させ、さまざまな文化や芸術を対象とする研究に応用することを通して、主体性・多様性・協働性を身につける。また、3年次のコース選択に備えるため、幅広い領域にわたる学科専門科目や「ワークショップ科目」の履修により、1・2年次に多様な文化・芸術に触れることで自己の興味・関心のあり方を見定める。 ・3年次では、「日本語・日本文学コース」「多文化理解・共生コース」「芸術・文化コース」のいずれかを選択し、少人数制の演習科目「文芸文化テーマ研究ゼミ」の履修により専門分野へのさらなる考究を深め、4年次の「卒業研究」への取り組みに結びつける。 ・4年次では、学びの集大成として「卒業研究」において卒業論文、卒業制作に取り組み、その過程で課題発見・解決力や論理的思考力を身につける。	

教育人文学部 文芸文化学科 (ED)

専門科目教育課程 2026年度生

科 目 群		卒業に必要な単位数	
共 通 科 目		22単位以上	
学科専門科目	必 修	29単位	90単位以上
	コース必修	10単位	
	コース選択必修	8 単位以上	
	選 択	43単位以上	
自由選択科目		12単位以上	
計		124単位以上	

- 共通科目から、必修科目9単位、選択必修科目6単位を含めた22単位以上を履修
- 専門科目から「卒業研究」を含めた必修科目29単位、各自所属するコースの領域からコース必修5科目10単位、コース選択必修4科目8単位以上を含めた90単位以上を履修すること。
- 自由選択科目は、12単位以上を履修
- 合計124単位以上を履修

What's "自由選択科目"!?

- 共通科目22単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例) 共通科目28単位取得した場合は、6単位分が自由選択科目の単位となる。
 - 自学科の学科専門選択科目90単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例) 自学科の学科専門選択科目を96単位取得した場合は、6単位分が自由選択科目の単位となる。
 - 他学科の他学科開放科目を修得すると自由選択科目の単位となる。
- a～cを組み合わせて（又は単独で）12単位以上を履修

科目区分		授業科目	単位数		授業形態	履修期	配当年次	他学科開放	備考	身につく力 (◎…重要な目的としている ○…主な目的としている)												
			必修	選択						語彙力・文字知識	日本語運用能力・文化の理解と分析	自文化と多文化に関する知識	情報収集と分析	文学・芸術・文化に関する知識	他者・多文化の共感と分析	課題発見と考察	協働の技法	多様性の理解、表現技法	芸術・文化に関する表現技法	発信	価値観の創造	
日本語科目		☐ 日本語基礎	2		講義	前	1年	×		◎	◎	◎						◎				
		☐ 日本語表現Ⅰ	2		講義	後	1年	×		◎	◎	◎						◎				
		☐ 日本語表現Ⅱ	2		講義	後	2年	×		◎	◎	◎			◎	◎		◎				
		☐ 日本語表現Ⅲ	2		講義	後	3年	×		◎	◎	◎			◎	◎		◎	◎			
こころの科目	読む・書く	☐ 朗読		1	演習	前	1・2・3年	×		◎	◎			◎	◎			◎	◎			
		☐ 精読		1	演習	前	1・2・3年	×		◎	◎	◎		◎	◎			◎	◎			
		☐ 演劇表現		1	演習	後	1・2・3年	×		◎	◎			◎	◎		◎	◎	◎			
		☐ 読み聞かせ		1	演習	後	1・2・3年	×		◎	◎			◎	◎		◎	◎	◎			
		☐ 文章創作		1	演習	前	1・2・3年	×		◎				◎								
	話す・聞く	☐ くらしの中のことば		1	演習	前	1・2・3年	×		◎	◎	◎		◎	◎			◎	◎			
		☐ 手話表現		1	演習	後	1・2・3年	×		◎				◎	◎		◎	◎	◎			
		☐ 表現技法		1	演習	前	1・2・3年	×		◎	◎	◎		◎	◎		◎	◎	◎			
		☐ アナウンス入門		1	演習	後	1・2・3年	×		◎	◎			◎	◎			◎	◎			
		☐ ことばあそび		1	演習	後	1・2・3年	×		◎	◎	◎		◎	◎		◎	◎	◎			
ワークショップ科目	☐ 多文化スタディーズ		2	演習	後	1・2・3年	×		◎	◎	◎		◎	◎			◎	◎				
	☐ 文化発信プロジェクト		2	演習	前	2・3・4年	×		◎		◎		◎	◎			◎	◎				
	☐ 着物の文化		2	演習	前	2・3・4年	×			◎			◎	◎			◎	◎				
	☐ 書籍空間論		2	演習	前	2・3・4年	○		◎	◎			◎	◎			◎	◎				
	☐ 和本の文化		2	演習	後	2・3・4年	×			◎			◎	◎				◎				
	☐ 小説研究		2	演習	後	2・3・4年	×		◎	◎	◎		◎	◎			◎	◎				
	☐ デジタルアート入門		2	演習	後	2・3・4年	×		◎		◎		◎	◎		◎	◎	◎				
	☐ 実用書道（硬筆）		1	演習	前	1・2・3年	×		◎	◎			◎	◎			◎	◎				
	☐ 実用書道（毛筆）		1	演習	前	1・2・3年	×		◎	◎			◎	◎			◎	◎				
	☐ デザイン書道（硬筆）		1	演習	後	2・3・4年	×		◎	◎			◎	◎			◎	◎				
日本語・日本文学科目	☐ デザイン書道（毛筆）		1	演習	後	2・3・4年	×		◎	◎			◎	◎			◎	◎				
	☐ 日本語学入門	2		講義	前	1年	×		◎	◎	◎		◎	◎			◎					
	☐ 日本文学概論	2		講義	前	2年	×		◎	◎	◎		◎	◎			◎					
	☐ 日本文学史A		2	講義	後	1・2年	○	日本語・日本文学コース必修科目	◎	◎	◎		◎	◎			◎					
	☐ 日本文学史B		2	講義	前	1・2年	○		◎	◎	◎		◎	◎			◎					
	☐ 日本文学史C		2	講義	後	1・2年	○		◎	◎	◎		◎	◎			◎					
	☐ 音声表現		2	講義	後	2・3・4年	○		◎	◎	◎		◎	◎			◎					
	☐ 漢詩・漢文に親しむ		2	講義	前	2・3・4年	○		◎	◎	◎		◎	◎			◎					
	☐ 日本語学A		2	講義	前	2・3・4年	○	日本語・日本文学コース選択必修科目4科目8単位以上を履修	◎	◎	◎		◎	◎			◎					
	☐ 日本語学B		2	講義	前	2・3・4年	○		◎	◎	◎		◎	◎			◎					
	☐ 日本語学研究A		2	講義	後	2・3・4年	○		◎	◎	◎		◎	◎			◎					
	☐ 日本語学研究B		2	講義	後	2・3・4年	○		◎	◎	◎		◎	◎			◎					
	☐ 日本文学論A		2	講義	前	2・3・4年	○		◎	◎	◎		◎	◎			◎					
	☐ 日本文学論B		2	講義	前	2・3・4年	○		◎	◎	◎		◎	◎			◎					
	☐ 日本文学論C		2	講義	前	2・3・4年	○		◎	◎	◎		◎	◎			◎					
	☐ 日本文学研究A		2	講義	後	2・3・4年	○		◎	◎	◎		◎	◎			◎					
	☐ 日本文学研究B		2	講義	後	2・3・4年	○		◎	◎	◎		◎	◎			◎					
☐ 日本文学研究C		2	講義	後	2・3・4年	○	◎		◎	◎		◎	◎			◎						

科目区分	授業科目	単位数		授業形態	履修期	配当年次	他学科開放	備考	身につく力 (◎…重要な目的としている ○…主な目的としている)											
		必修	選択						語彙力・文字知識	日本語運用能力・ 文化の理解と分析	自文化と多文化 の理解と分析	情報収集と分析	文学・芸術・文 化に関する知識	他者・多文化の 共感と分析	課題発見と考察	協働の技法	多様性の理解、 多様な表現技法	芸術・文化に関 する表現技法	発信・価値観の創造、 価値観の創造、	
日本語・日本文学科目	☐ 言語学入門		2	講義	後	1・2年	○		○	◎	○	○	○	○	○	○				
	☐ 日本文学の名作		2	講義	前	1・2年	○		○	◎	○	○	○	○	○					
	☐ 武将文学論		2	講義	前	2・3・4年	○			◎	○	○	○	○		◎				
	☐ 放送文化と日本語		2	講義	後	2・3・4年	×		◎		○	○	○	○		○		◎		
	☐ 日本語音声学		2	講義	後	2・3・4年	○		○	○	○	○	○	○	◎			○		
	☐ 児童文学		2	講義	前	2・3・4年	×			○	○	○	○	○	◎				○	
	☐ 物語分析		2	講義	後	2・3・4年	○			○	○	○	◎	○	○					
多文化理解・共生科目	☐ 多文化理解入門	2		講義	前	1年	×		○	○		◎	○	○	○					
	☐ 多文化理解概論	2		講義	後	1年	×		○	○		◎	○	○	○					
	☐ 日本と異文化		▲2	講義	前	1・2年	○	多文化理解・共生 必修科目		◎		○	◎	○		○		○		
	☐ 多文化社会とコミュニケーション		▲2	講義	後	1・2年	○		◎	○	○	○	○	○		○		○		
	☐ 多文化共生ワークショップ		▲2	講義	前	1・2・3年	○			○	○	○	○	○	◎		○		○	
	☐ 英語で学ぶ日本文化		▲2	講義	前	2・3・4年	○			◎	◎	○	○	◎	○		○		○	
	☐ 英語で伝える日本文化		▲2	講義	後	2・3・4年	○	多文化理解・共生 選択必修科目 4科目8 単位以上 を履修		◎	◎	○	○	○		○		○		
	☐ 海外文学の名作		△2	講義	後	1・2年	○			○	◎	◎	○	○		○		○		
	☐ 国際文化論		△2	講義	前	2・3・4年	○			◎	○	○	◎	○				○		
	☐ 比較文化論		△2	講義	前	2・3・4年	○			○	○	○	○	○				○		
	☐ 比較文化研究		△2	講義	後	2・3・4年	○			◎		◎	○	○		○		○		
	☐ 世界のファンタジー		△2	講義	後	2・3・4年	○			○		◎	○	○		◎		○		
	☐ 多文化社会とユーモア		△2	講義	後	2・3・4年	○		○	◎		◎	○	○		○		○		
	☐ アニメ文化論		△2	講義	前	2・3・4年	○			○		◎	○			◎		◎		
	☐ ディズニー研究		△2	講義	後	2・3・4年	○					◎	○			◎		◎		
芸術・文化科目	☐ 芸術文化概論	2		講義	後	2年	×		○	○	○	◎	○		◎					
	☐ 日本文化特講	2		講義	前	3年	×		○	○		◎	○	○	◎		○			
	☐ 生涯学習概論		●2	講義	前	1・2年	○	芸術・文化 必修科目	○	○		◎	◎	◎	○	○	○		○	
	☐ 日本美術史		●2	講義	後	1・2年	○			○	○	◎	○	◎	○	○	○		○	
	☐ 西洋美術史		●2	講義	前	1・2年	○			○	○	◎	◎	○	○	○	○		○	
	☐ 文化財研究		●2	講義	後	2・3・4年	○			○	○	◎	◎	○	○	○	○		◎	
	☐ 日本の民俗文化		●2	講義	前	2・3・4年	○	芸術・文化 選択必修科目 4科目 8単位以上 を履修		◎	○	◎	○	○	◎		○		○	
	☐ 文化を考える		○2	講義	前	1・2年	○		○	◎		◎	○	○				○		
	☐ 図書の文化		○2	講義	前	2・3・4年	○					○	○	○	○	◎		◎		
	☐ 衣食住の文化		○2	講義	後	2・3・4年	○			○	○	○	○	○	◎		○			
	☐ 映像文化論		○2	講義	後	2・3・4年	○			○	○	○	○	○	◎					
	☐ 演劇の世界		○2	講義	前	2・3・4年	○			○	○	◎	○	○	○	○		○		
	☐ 芸術と歴史		○2	講義	前	2・3・4年	○		○	○	○	◎	○	○	◎		○		○	
	☐ テーマで触れる芸術		○2	講義	前	2・3・4年	○			○	○	◎	○	○	◎		○		○	
	☐ 生活とデザイン		○2	講義	後	2・3・4年	×			○	○	◎	○	○	○	◎		◎		
	☐ 考える日本史		2	講義	後	2・3・4年	○			◎		○	○	◎	◎		○			
	☐ 神話・伝承学		2	講義	後	2・3・4年	○			○	○	○	◎		◎			○		
	☐ 芸能の世界		2	講義	前	2・3・4年	○			○	○	○	○	◎	○	○		○		
	☐ 舞台芸術		2	講義	後	2・3・4年	○			○	○	◎	◎	○	○	○				
	☐ ミュージカル研究		2	講義	前	2・3・4年	○			○	○	◎	◎	○	○	○				
	☐ 身体と表現		2	講義	前	2・3・4年	○					◎	○	○	○	○	○	◎		
ゼミナール・ 卒業研究	☐ 基礎演習	1		演習	後	1年	×		○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	☐ 文芸文化ゼミⅠ	1		演習	前	2年	×		○	○	○	○	○	◎	○	○	○			
	☐ 文芸文化ゼミⅡ	1		演習	後	2年	×		○	○	○	○	○	◎	○	○	○			
	☐ 文芸文化テーマ研究ゼミ	2		演習	通	3年	×		○	○	○	○	○	◎	○	○	○			
	☐ 卒業研究	4		演習	通	4年	×		○	○	○	○	○	◎	○	○	○			

「卒業研究」の履修について
 註：原則として、「卒業研究」を履修するには、3年次終了時に、以下の2つの条件を満たしていること。
 ①2年次までの必修科目をすべて修得していること。
 ②修得単位数が76単位以上であること。

「コースの履修について」
 註1：日本語・日本文学コースは単位数欄にある■印科目が必修科目。他に単位数欄にある□印科目より4科目8単位以上を履修すること。
 註2：多文化理解・共生コースは単位数欄にある▲印科目が必修科目。他に単位数欄にある△印科目より4科目8単位以上を履修すること。
 註3：芸術・文化コースは単位数欄にある●印科目が必修科目。他に単位数欄にある○印科目より4科目8単位以上を履修すること。

I 学芸員資格 取得課程（文芸文化学科）

1 学芸員資格取得課程履修の手引き（2026年度生）

教育人文学部文芸文化学科には、学芸員資格取得のための課程が開講されています。

学芸員とは博物館法に定められた博物館・美術館等に置かれる専門的事項をつかさどる職員として認められている資格であり、博物館資料の収集や保存、展示、調査研究などを担います。学芸員の資格を取得するためには、文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位が規定されています。大学を卒業した者で、本学開講の学芸員科目のうち、23単位以上を修得した者に卒業と同時に学芸員となる資格が与えられます。

受講希望者は、4月に行われるガイダンスを受け、以下の事項に留意の上、履修してください。

【履修方法】

履修者は、博物館法施行規則の規程に基づいて、本学が開講する科目の中から、必修科目を19単位、選択科目は法令上の科目（美術史、文化史、民俗学）の2領域以上から2科目4単位以上を修得してください。

法令上の科目				本学開講科目				
科目名		単位数		科目名	単位数		履修期	配当学年
		必修	選択		必修	選択		
必修科目	生涯学習概論	2		生涯学習概論▲	2		前期	1・2
	博物館概論	2		博物館概論	2		前期	1・2・3
	博物館経営論	2		博物館経営論	2		後期	2・3・4
	博物館資料論	2		博物館資料論	2		後期	1・2・3
	博物館資料保存論	2		博物館資料保存論	2		後期	3・4
	博物館展示論	2		博物館展示論	2		前期	3・4
	博物館教育論	2		博物館教育論	2		前期	2・3・4
	博物館情報・メディア論	2		博物館情報・メディア論	2		後期	2・3・4
	博物館実習	3		博物館実習Ⅰ	2		後期	3
			博物館実習Ⅱ	1		後期	4	
選択科目	美術史	2		日本美術史▲		* 2	後期	1・2
				西洋美術史▲		* 2	前期	1・2
				生活とデザイン▲		* 2	後期	2・3・4
	文化史	2		芸術文化概論▲		* 2	後期	2
				日本と異文化▲		* 2	前期	1・2
				文化財研究▲		* 2	後期	2・3・4
	民俗学		2		日本の民俗文化▲		* 2	前期

註1：*印の選択科目は法令上の科目（美術史、文化史、民俗学）の2領域以上から2科目4単位以上を履修すること。

註2：受講希望者は学科の指示に従ってください。

【履修における留意事項】

- ①▲印の科目は、文芸文化学科の専門科目として開講しています。
- ②「博物館概論」は、できるだけ1年次に履修してください。
- ③「博物館実習Ⅰ」の履修には、履修条件があります。詳細は4月に開催されるガイダンスや担当教員の説明を必ず聞いてください。
- ④「博物館実習Ⅱ」の履修は、「博物館実習Ⅰ」を事前に履修してください。
- ⑤「博物館実習Ⅱ」では、博物館等の現場で学芸員の仕事を実習します。